

552

くらげ形をとりて厚くはつたりある
 玉あり是とに元子と云ふは後より永平寺
 道元和尚後醍醐天皇御時御成りて
 此の焼酎の味と云ふは即ち此の字
 の類を焼くとも焼酎と云ふは焼酎
 ゆへは葉もよく解と云ふは即ち
 と云ふは葉もよく解と云ふは即ち
 暦年仲の人なり今云ふは即ち
 此の焼酎の味と云ふは即ち
 の焼酎の味と云ふは即ち

[illegible]

つるふあふあう何れ果実黒果のりよ
 ちやうく果何う古く果をいふは福つとて
 之は果とていふは果とてあり
 一肩何文津子親果のりよ蹄た海
 の果は法付銀果のりよ抽湯桶橋常陸市
 高片のりよあり
 船何あり湯桶水滴親果のりよ
 つるふ果のりよあり

唐の肩何長三寸下
 高片のりよあり

銀銅系入

銀銅は唐金の果あり
 高片のりよあり

新出銀銅の
 高片のりよあり



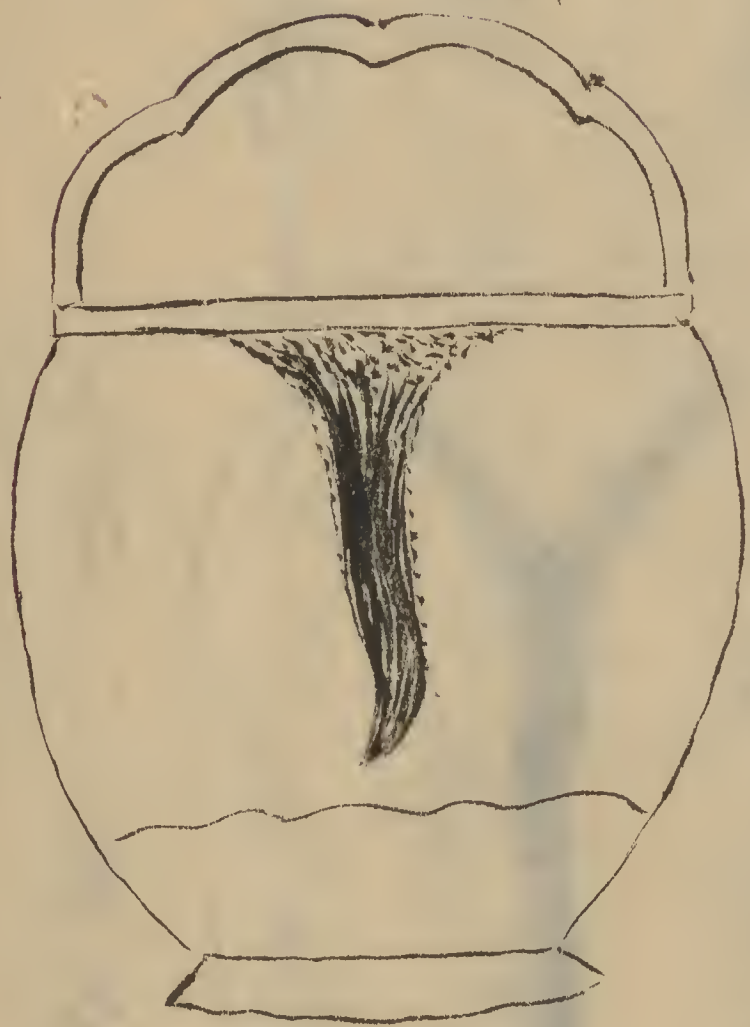
長片三寸下
 高片のりよあり
 口三寸下
 高片のりよあり
 底三寸下

右条入飯洞と云

一 云漬黄の条に地条層意いりあり葉ありわき思
 利地ありと葉ハ極く思一層意いりまを合ふあり
 一 必条中とミク条切細くわの通ありま収盡しとて又
 刺やいもす一又い屋川うふいもさる

一 此条は痛たふたり
 油痛も溜油と云
 と云節有

湯桶条入又湯桶共



長丁計七
 中丁計七
 口寸中
 底寸下

一 云漬黄の条あり又い白きもあり中葉濃物あり世観

いりありと葉は蛇鰯条あり葉毎回条は

一 蓋刺黄よりある葉収の横収よりうりむけか
 ありま収盡の時と云中い白海のやあり

左滴条入

一 い条入る条ありありあり
 水ありむとあり義政る
 湯ありたれてより条条入
 いりありと云



長丁計七
 中丁計七
 口寸中
 底寸下

朱あり但し
早より揺る
なり

一 地葉ハ黄葉の黒くするなり 限減の葉を
知るなり 地の通る黄葉のちりくと黄す又
る 何うニヤ葉と云

龍溪集

形貌なりたう葉小形也なりたう。厚肉の瓢箪ひょうたん状をなす。花

地菜屬菜之類也其性又和此有菜之性

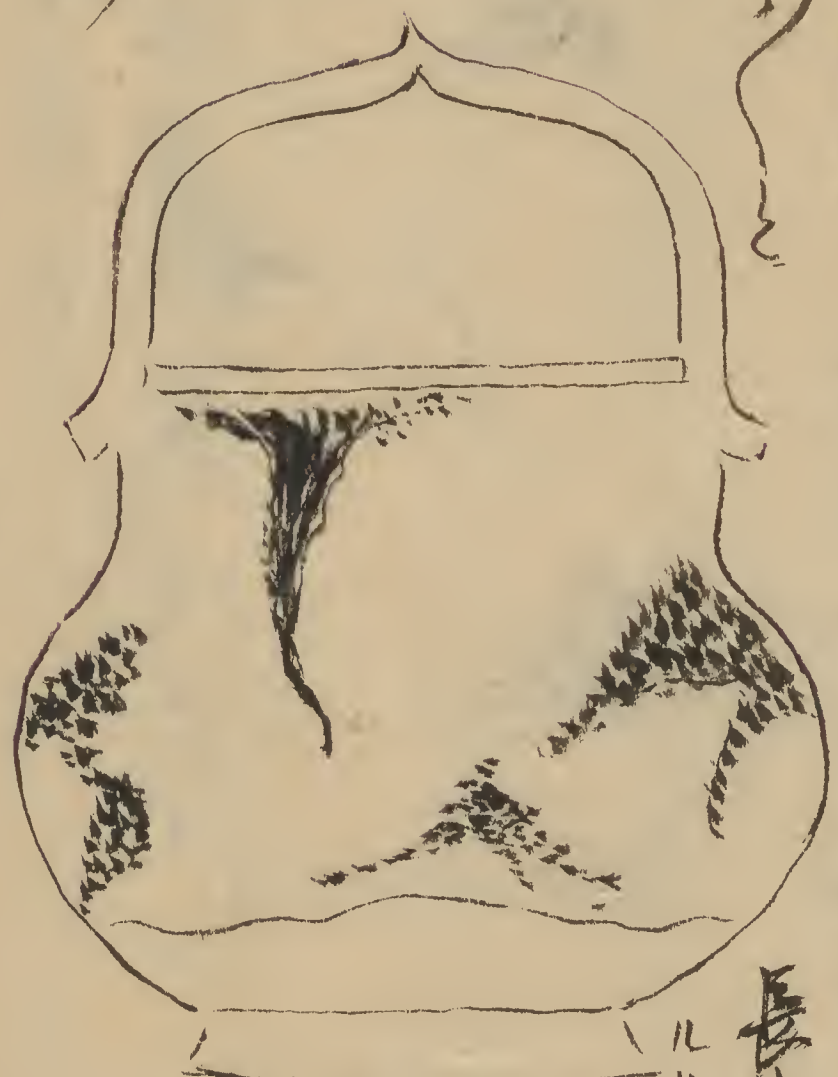


一 日遠く接し
又あゝあゝと
東西廻り
花車あり

[illegible]

弦付茶入

- 一 じ茶入湯桶は似く又形大は遠く有
- 一 茶葉の水は是きあり又茶葉もあり此茶葉と
- 茶葉一たんきくてもわく
- 利便有は湯桶と
- 一 蓋は割くはるあり
- きねきくはるあり
- きねきくはるあり



茶葉茶入

長井式す下
ル途す下
湯す下
目す下
底す下
六す下

湯桶茶入

- 一 じ茶入湯桶は似く又形大は遠く有
- 茶葉の水は是きあり又茶葉もあり此茶葉と
- 茶葉一たんきくてもわく
- 利便有は湯桶と
- 一 蓋は割くはるあり
- きねきくはるあり
- きねきくはるあり

- 一 じ茶入湯桶は似く又形大は遠く有
- 茶葉の水は是きあり又茶葉もあり此茶葉と
- 茶葉一たんきくてもわく
- 利便有は湯桶と
- 一 蓋は割くはるあり
- きねきくはるあり
- きねきくはるあり

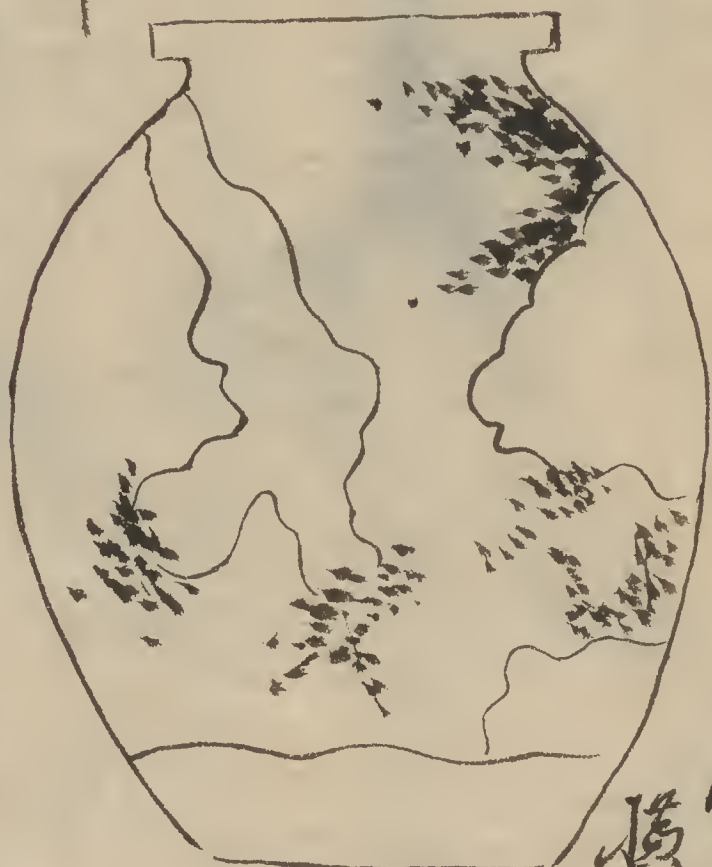


茶葉茶入

長井式す下
ル途す下
湯す下
目す下
底す下
六す下

文井茶入

林檎茶形小ゆる故に文井と云く
 唐の玄宗の時李漢金人
 漢金人林檎と帝小まされいふ方
 へん漢の縁を結んで文井帝
 の唐よあされた母より小より
 林檎と文井帝といへり
 其故は茶入の相似るといふ文井と云

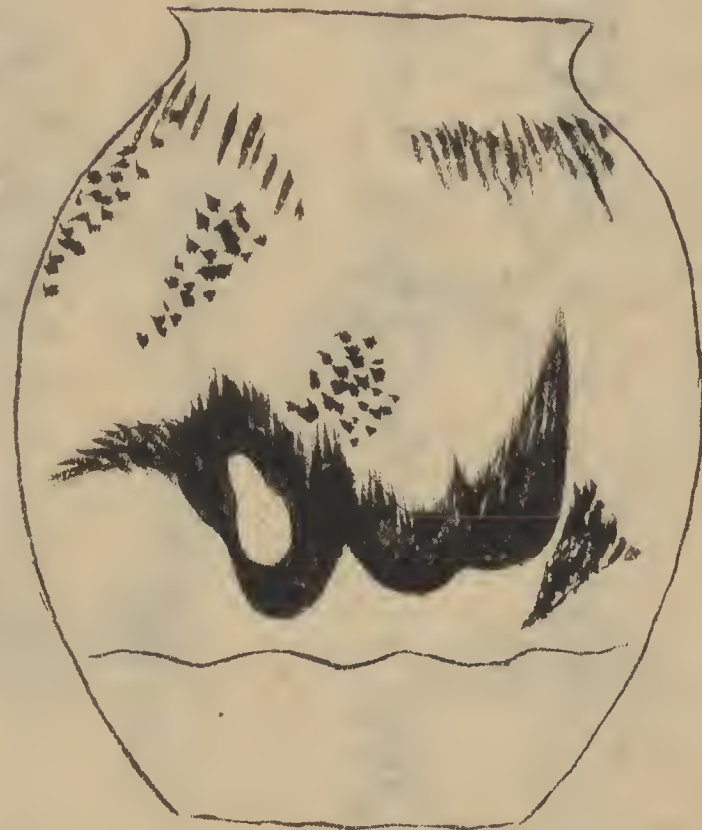


堅守中
 横守中
 中守中
 底守中
 口守中
 腰守中

一 土庫茶入は唐帝茶入茶入を豊に古くは浪形化上
 流れに蛇蝎茶入多くと文井茶入云文井は文井
 形は唐より有一粒の文井は文井

茄子茶入

一 茄子茶入小ゆる故に文井と云く
 土庫茶入とありは遠接近茶入細く
 見れば首に真の蓋立の時茄子茶
 入と云ふとあり中古利保の茶入肩
 漸文井九龍虎つりて用結句茶
 子ハ茶入あり多し



堅守中
 横守中
 中守中
 底守中
 口守中
 腰守中

一 此茶葉館茶あり十文ハ唐茶との館茶あり
 腰迫りの茶と云く漢してたり茶あり厚
 一 蛇蝎茶如景満里を唐茶と云く多し茶あり略

尻膨フシラ系入

横寸三寸
底寸三寸
口寸三寸



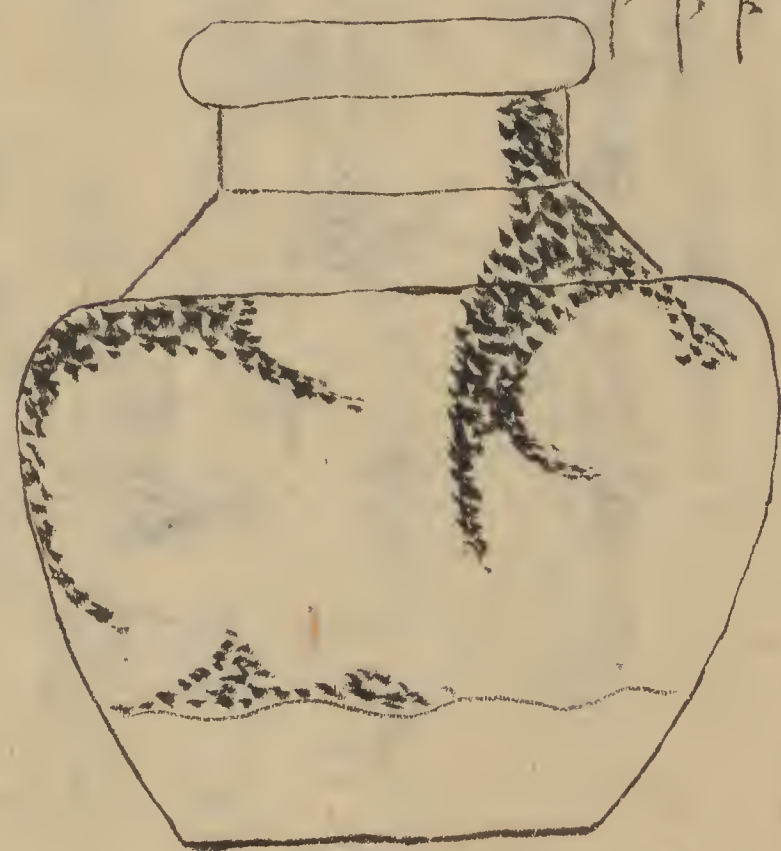
一 此形と前々形とあり形は肩より

はさるゝ尻ふくといふ肩のほらとを前々といふ底ふ
多し古形真中古小なりを束の底作も
なりあり底ふく底ふく

一 此形は前々形とあり吉地系よりか館とあり
蛇場系は系一入多形あり古形又より日焼くも

長丁系入

横寸三寸
底寸三寸
口寸三寸



一 此形箱底といふ底を束より二寸
箱つとふ系は系館はなり底ふ

なりあり箱底といふ底より底ふ

又底ふ多しといふ日焼くも真中古の形とあり
ありあり箱底といふ底より底ふ

丸壺系入

一 此系入はふくといふ底の系入は底ありあり

上流茶入

一 古き茶碗の土流とてあると茶の湯に合う
 ふうふうとあり——中古より肩彫と書か
 大流目とあるありたり然れ
 今も茶子の茶碗大流と用出
 紫く赤くありや茶忌作ありと
 蛇蝎う蓋茶碗かこよ
 くる智地とこころこよ
 こよあり目印焼う蓋茶碗一丁すこやと有
 其山と茶碗とありと有

内流茶入

一 茶入極小の土流と目申あり肩のきつと付
 うと内流と云肩丸きと土流と云七に茶碗も
 大流と目申あり目印焼も多し其茶碗
 とよ目印ありとありと有
 横子などい又巾着ある也
 土流と云中の土流と有
 ある也

堅き茶碗と有
 山りすの茶碗と有
 底き茶碗と有
 口き茶碗と有



常陸市茶入

一 西暦十月麻生神社に市をかゝるる如き
 じ茶入市ありふりてありて右の如き
 市といふ然る常陸市中に肩衝と云ふ有て是有
 是に云ふあり

一 多々度有て此茶入茶入も
 何れも細く入りあり
 に造接ぎの常あり茶
 茶入茶入ありと茶入茶入あり
 又茶入茶入の一節流あり又蛇鶴と云ふ
 茶入茶入あり



角茶入


一 角茶入と云ふは、角の形に成格合し、似ては
 角形と云ふより、上は角形と云ふに造接ぎ
 茶入。此茶入は茶入あり茶入ありと云ふ
 茶入有て茶入は茶入と云ふ
 茶入は流れの形と云ふあり
 茶入の形と云ふあり茶入の
 茶入の形と云ふあり茶入の形と云ふあり



隆武すて下と有
 由目すハト茶
 底ハト

面取年系

一は茶入安如亭、わき面取り巻袖と、
あるあがり唐も面をたさうある。おし上清魚又
茶とももの荒目ふらぬれともえ葉ことしちして
細くある。おしは造接函鉄より
造接びり下茶席付之又
席思ふ茶もあり地持の思ふ
茶有る茶と思ふ茶むうくと
一人んよ有る中古のねあり



車油藥入

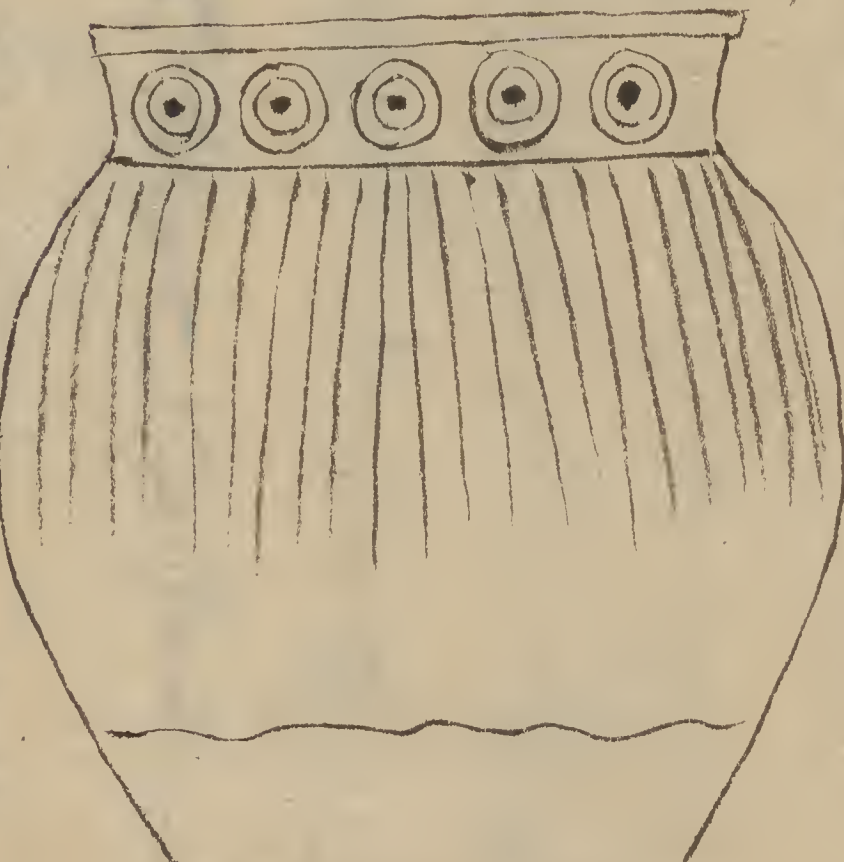
一
 此名車の物なして云なり肩の骨
 仍るに之の中古瀬の洞に物と知て出
 漢画にあり又漢画に物と知て出
 上京漢画にあり又漢画に物と知て出
 あり又漢画にあり又漢画に物と知て出
 あり又漢画にあり又漢画に物と知て出
 あり又漢画にあり又漢画に物と知て出



聖武天皇
 御宇
 乙未年
 八月
 丁未日
 乙未年

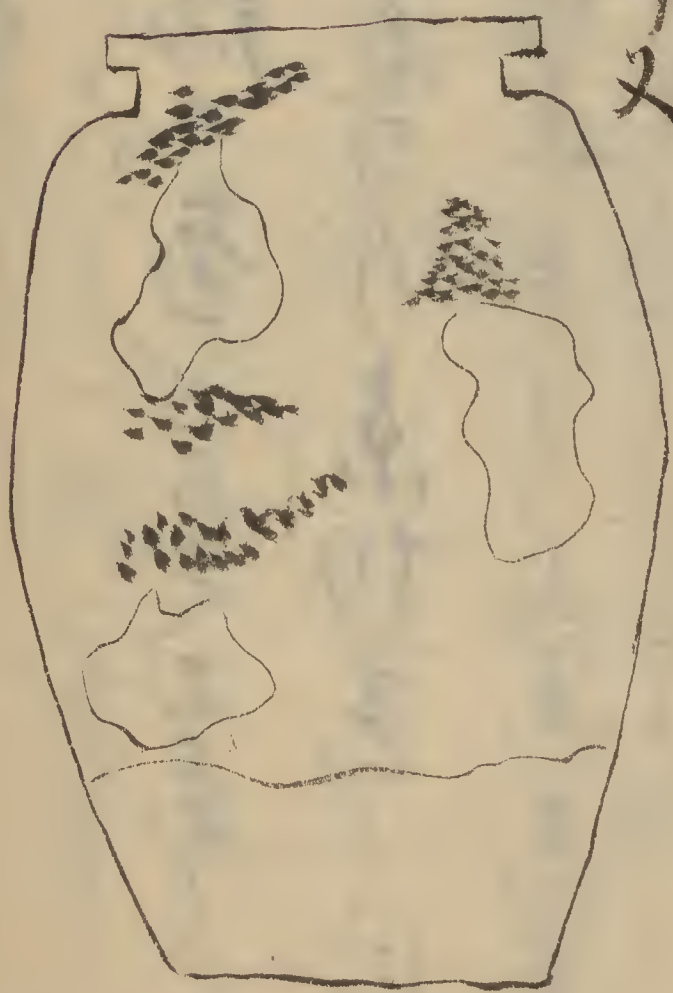
ルイガ
偏柔入

じきいんてらひ雲の葉と云ふて用とあり
こも様と福木と云て首の通る小睡をくわす也
ありちうよりこも様と云て云錦也古藤糸と
総白さ小砂や宛する根あり
比造玄迫り小波有総坐の葉白キ
地あり葉四つも草くと切なり葉又
あゝ或ハ山形或靴を下葉落樹
と葉ハ忌し又黄葉かば是と云
とす大形白焼紋と切付葉あり
らず扇匠年々其又有りぬあり



胴塚年茶入

一 けねを胴張あるゆつゝと云あり形ありふろふね
 あり又胴高とも云ありまへ中古の形あり
 ちふふこの形あり相ありは送接ありはるあり
 糸印ありとて切口あり
 と茶葉くまなくとあり又
 茶葉流ても有如茶葉
 もとあり



耳付茶入

一 茶入しるも耳付とも云古薩摩い耳多し又
 ありと云ありも有流あり月も耳付あり利休焼
 流平鐵形あり多ありと云あり古流あり古流あり
 中茶葉茶葉ありと茶葉茶葉茶葉茶葉の
 くともと云ありと云ありと云ありと云あり
 一 茶入ありと云ありと云ありと云ありと云あり
 一 茶入ありと云ありと云ありと云ありと云あり



樽系入

一 樽成、胴と強、砂、木樽の形、能く、と、い、理、
 又、かき、と、う、と、も、云、首、細、く、胴、と、う、さ、く、あ、り、
 か、う、の、腹、は、能、く、と、た、う、て、云、能、く、あ、り、底、面、を、上、へ、
 着、く、と、は、造、接、を、見、て、あ、り、多、く、細、く、見、る、と、
 比、系、属、系、の、館、系、の、り、と、系、
 是、系、属、系、館、系、の、り、と、系、
 く、と、も、

堅、砂、寸、下、
 山、寸、下、
 に、寸、下、
 底、寸、下、



達磨系入

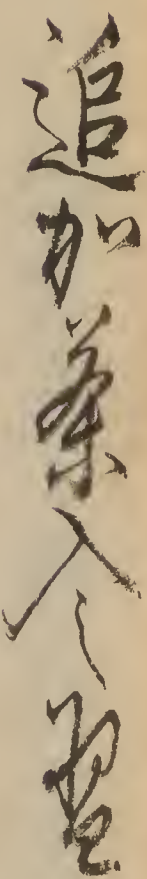
一 達、磨、系、入、樽、は、形、を、あ、り、ふ、
 う、と、い、う、て、達、磨、系、の、り、と、系、
 お、あ、り、上、へ、着、く、と、は、造、接、を、
 う、さ、く、あ、り、と、系、の、り、と、系、
 如、果、系、の、り、と、系、
 細、利、系、の、り、と、系、

堅、砂、寸、下、
 山、寸、下、
 に、寸、下、
 底、寸、下、



ア
今

黃龍集



萬年長壽

但喜之似之

肩の中よりあつたものなり、おもひ成願也

赤子業無記和記多二白一又廣赤子も有る也之

一 飯焼

飯焼は、飯を焼く事、及、地味濃漬の飯也
あり

一 焼み

焼みは、米を焼く事、及、下火をくく
飯を焼く事、及、下火をくく

一 焼み

焼みは、米を焼く事、及、下火をくく
飯を焼く事、及、下火をくく

一 八宝焼

一 八宝焼

八宝焼は、米を焼く事、及、下火をくく

一 大竜焼

大竜焼は、米を焼く事、及、下火をくく

一 高き竜

高き竜は、米を焼く事、及、下火をくく

一 かつらん焼

かつらん焼は、米を焼く事、及、下火をくく

一 家伯焼

家伯焼は、米を焼く事、及、下火をくく

一 つまみ焼

つまみ焼は、米を焼く事、及、下火をくく

一 柳川

柳川は、米を焼く事、及、下火をくく

一 山の神

一 山の神

山の神は、米を焼く事、及、下火をくく

小石

古詩

厚

金瓶梅

21

志上強曉

懷屋裏

肥後院

子名

中右子とて其方なり

根拔糸入主面より厚くおとす

公亦以爲後之鑑也

口廣く座丸を以て

尾明弘利休時代

中々、細いおちり

是も古懐寔の能なり

茂堂

利休時代作者一名

鬼

或曰唐帝ハ三才後の也と云は

是神名明あり二代目と称ふるなりと云と雖も一は名を
 めい代と名人と云ふ縁今又藤原里より是有ち作の二并
 の由は鬼田希と云仙者ありてんたとなに時代
 小南山と云似としてと名ありて似る名と付る
 るもの此の傳者もあるなりと云ふなり

梁曉

桑椹の如く出づる葉は是れも氣をいへ
 又思ふと氣をいへるものなり
 のちいへるものなり

夏鴻鏡

[illegible]

一 石山橋 是、座のりせと云ふ、京柳馬場之系
中、所々橋あり、中、年余ある所、未だと云く、
多、座のりといふ、座多し、自然も物、
といふ、座多し、自然も物、座多し、自然も物、

古き如く度也とて是れふと九龍文海の如く多し
 當り度也とこれより少くすてなる益然れども柔の陽は
 おゆるし柔の陰も亦も度と能く今に不富とこれに能く
 これに度也とありとこゆらう徳を柔に堅むらうとたまり
 柔ありとさう云ふとこゆらうと然れとも必うとありとこもあ
 る柔の柔もさうとて是れは書にあらる後人云々とす
 然りてあつて自然の如くく知てとて目利は至れ
 る如き心は徳を秘とて

一
三
沈

白土中藥馬山藥苗流

神中

としてふしの境をなす葉は是なり
 若かりし成るも然有り 富士に
 仁徳とら者ふふとしてふ入る白雲
 葉は是なり 是なり 白雲

一
御
覽

久遠曆代

十
五
二
柳
系
小
白
子
蛇
踢
子
水
有

伊賀越前
の桑入有白_き出_る白_き切_る物_{なり}

丁未、東のなぐ水あり

九合焼とて、如美大智寺、松平中納言利治の忠告によ
 後、又七年とて、之と對する（之を焼也の事とあり、これ谷
 とて、之が奥山、焼く所あり、流石の利治公、所を告ぐて、之の飛
 とて、之が如美大智寺あり、東代に對し、あり、之の作あるへ
 中、如美大智寺は、世は多くある、之とあり、之の多い

一
白
宋
隆
磨
磽
嶸
欒
子
之
子
少
子
少
子

一 胡麻葉生諸藥上
淨炒之化也

一 河經案 小師の變る如く小てもろくと此は多
るを有り蓋案も凡その如く有るなり

蛇蝎茶トカイロ茶座焼酒

一 利便 目録を租子の如く細やくし之を却て定率と云

一 ホウシヤ、茶、黄、茶あり。ホシヤハ名テカサネ茶有。

一 能業是之赤之黄之橘之の之

系系黃系五系

水菜 腐菜との合菜と云ひつゝ又菜漬

ちの^①う^②に^③葉なり^④上海女子^⑤系入^⑥和^⑦也

和池素
温相公
是日
如之
作也

電所の事

瓶三竈
後同部は竈下、度也、燒と云

祖母懷毫
ひふとうむとこ
とくといふに
たふさく

春津電
じ電、王の名をて春津と云ふ所へ

信濃と美濃と信濃と信濃と

妻小室
下の庭と作あり

和の石史と俳史

石の屋敷

和の心也 申傳あり

下作

下地

伊洛臨古境

じ毫の焼油、
安永の西条、
西条の末子

乃主變入于也之修修及修毫卜云

新電

東馬田焼沖宮焼清水焼
 小沼焼子焼江戸多馬焼
 尾張焼いおべ焼萩
 焼中焼加賀焼富山焼
 薩摩焼江戸焼多馬焼

挽救家國

肩棚文林喜字長山書

飛川
廣沃
生海
龍子
子子
子子

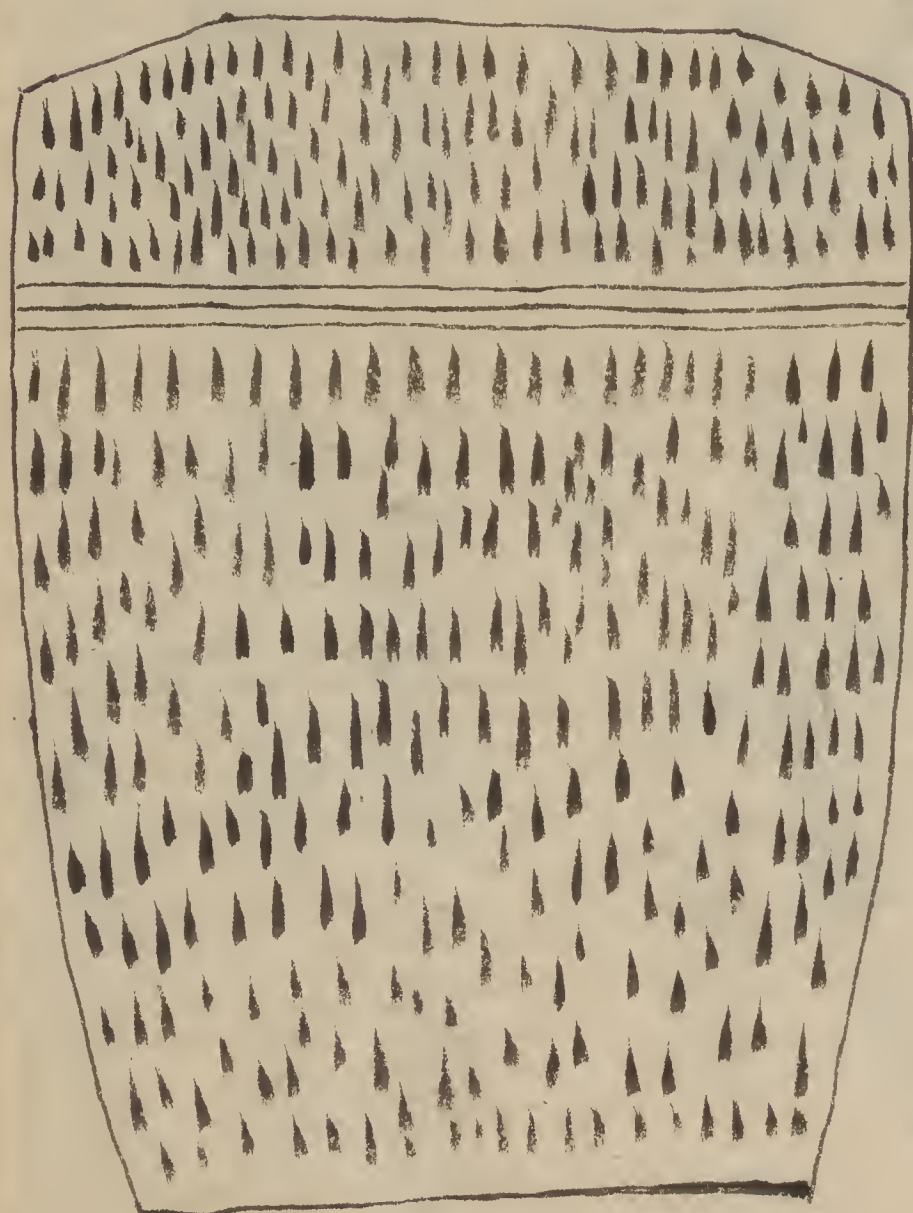
魁象耳車北是丁

工口樽真弓院書

梧 雁 玉 梧 庭 梧 之 類 也

黃葉柳小川

天目子野田本目元市



新嘉音研中口底

在形系入使家ハ心受と用

中ハ使家ハ心受

思冬ハ系冬ハ名カキタカヤシクワリント年

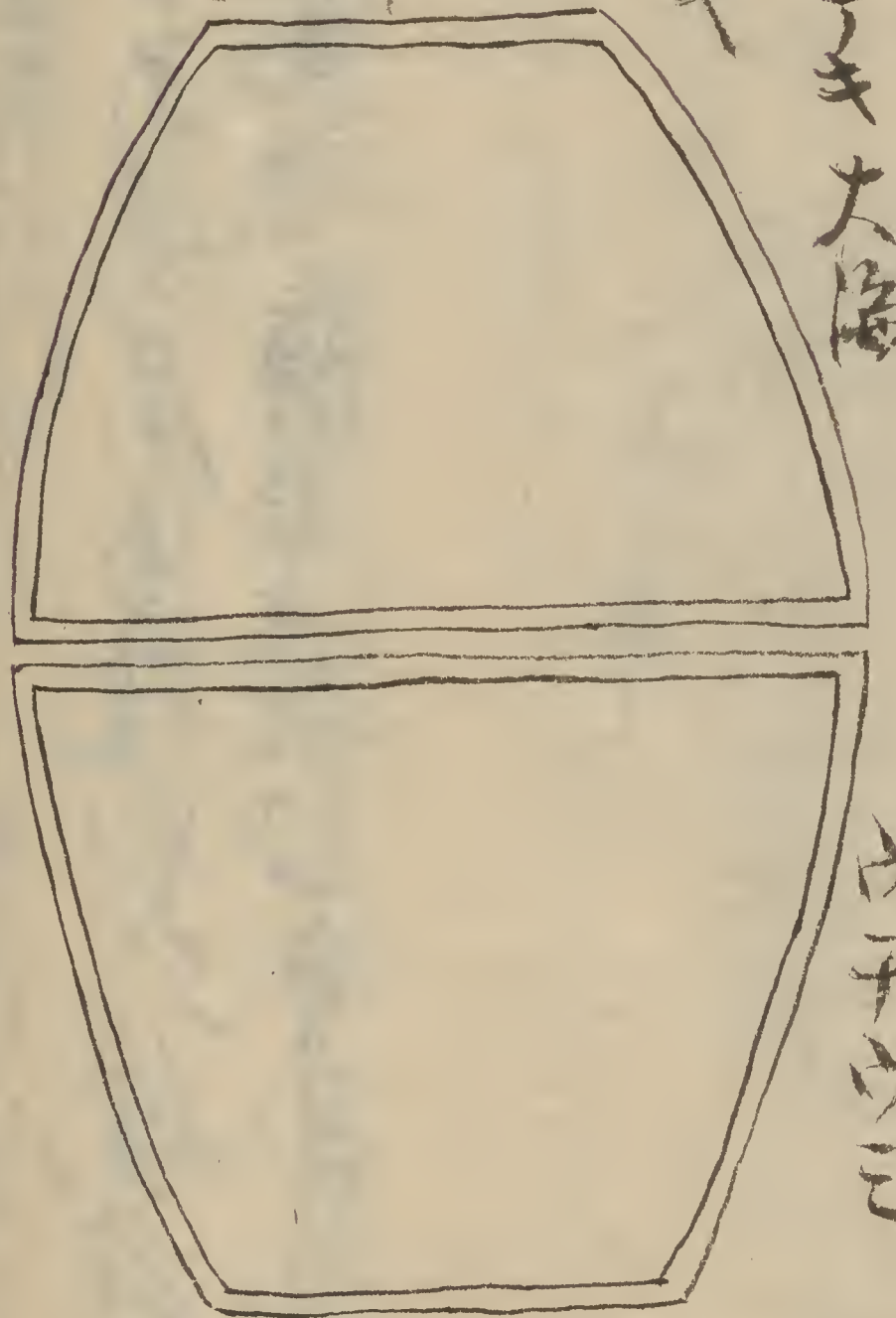
尾膨ハスヒ飯網スリテキ大海

九臺ユトウ年縮カキ

達麻ハツルヒ持光

ルイサ又掃ツルキ新葺

心ハ心ハ使家と目ベシ



ウナウニ

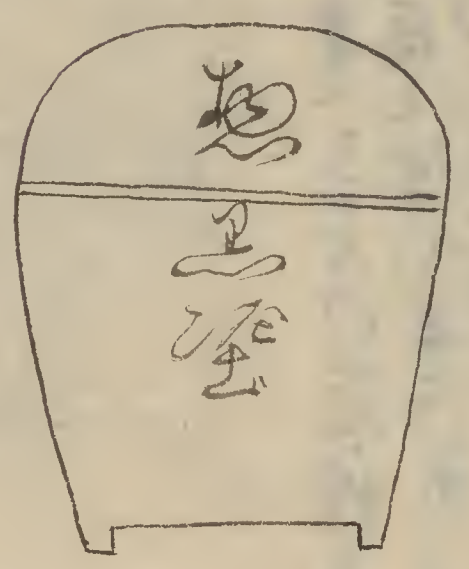
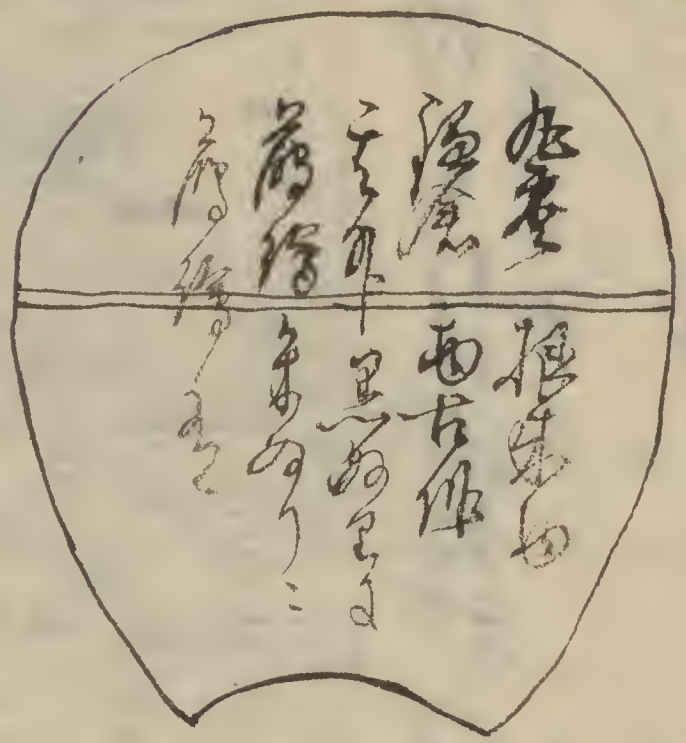
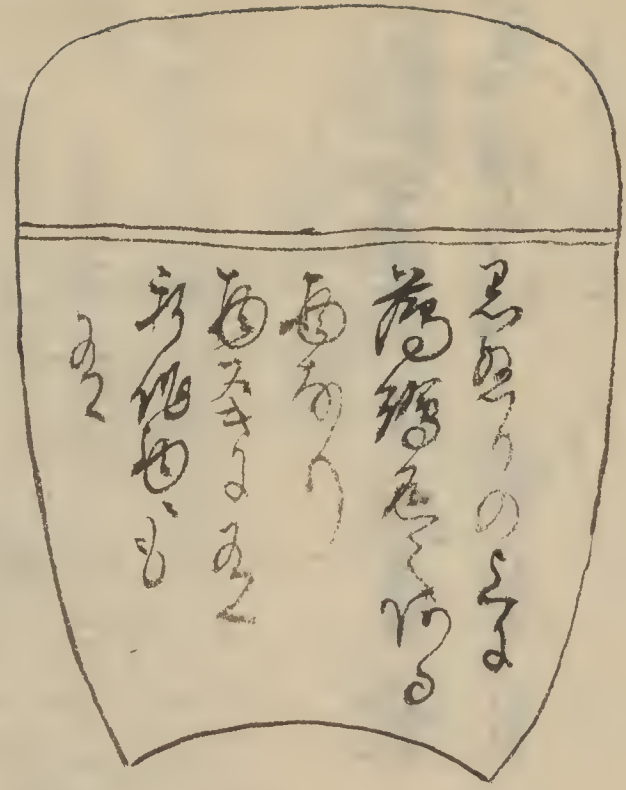
一東山義政公 佐長公 大関時代、古藤橋より利保

他ハ思ぬまあり 但し底ハ新葺トシ

貞東ハ成宗

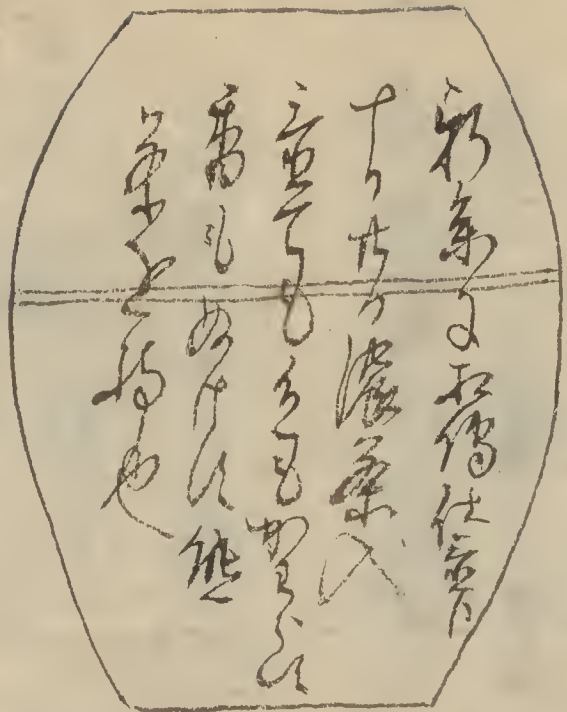
九東ハ成宗

志望ハ老翁

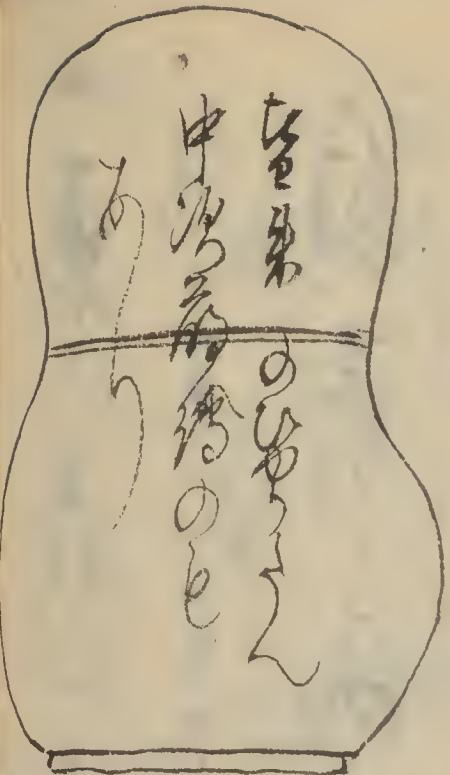


一少老の像ハ... 新他の... 又新葺も... 新嘉... 新嘉音研中口底... 在形系入使家ハ心受と用... 中ハ使家ハ心受... 思冬ハ系冬ハ名カキタカヤシクワリント年... 尾膨ハスヒ飯網スリテキ大海... 九臺ユトウ年縮カキ... 達麻ハツルヒ持光... ルイサ又掃ツルキ新葺... 心ハ心ハ使家と目ベシ... 一東山義政公 佐長公 大関時代、古藤橋より利保... 他ハ思ぬまあり 但し底ハ新葺トシ... 貞東ハ成宗... 九東ハ成宗... 志望ハ老翁... 一少老の像ハ... 新他の... 又新葺も... 新嘉... 新嘉音研中口底... 在形系入使家ハ心受と用... 中ハ使家ハ心受... 思冬ハ系冬ハ名カキタカヤシクワリント年... 尾膨ハスヒ飯網スリテキ大海... 九臺ユトウ年縮カキ... 達麻ハツルヒ持光... ルイサ又掃ツルキ新葺... 心ハ心ハ使家と目ベシ... 一東山義政公 佐長公 大関時代、古藤橋より利保... 他ハ思ぬまあり 但し底ハ新葺トシ... 貞東ハ成宗... 九東ハ成宗... 志望ハ老翁...

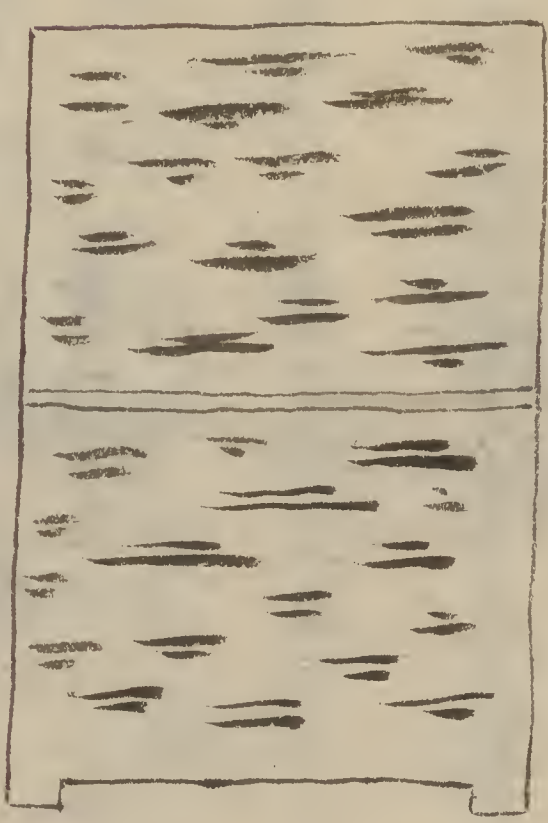
巾着い様
中次茶を思塗



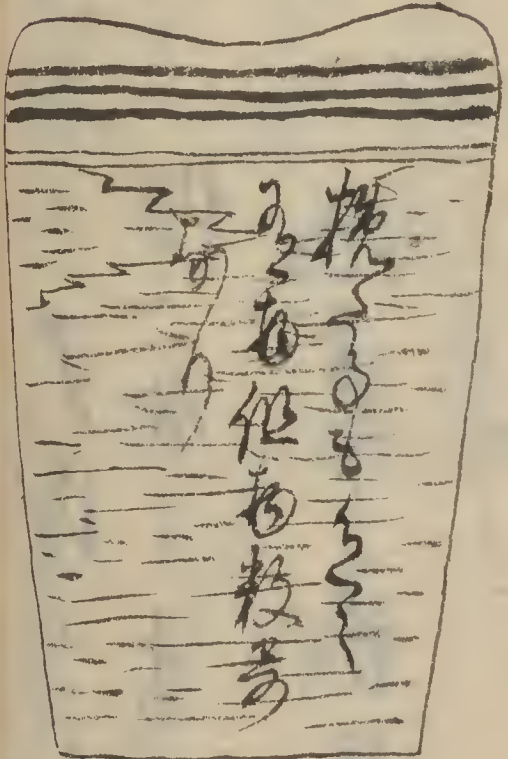
中次茶を思塗
思塗茶を思塗



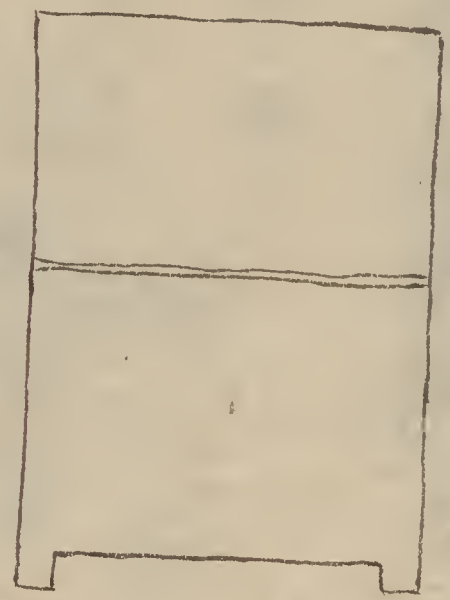
中次茶を思塗
思塗茶を思塗



巾着い様
中次茶を思塗



中次茶を思塗
思塗茶を思塗



巾着い様
中次茶を思塗

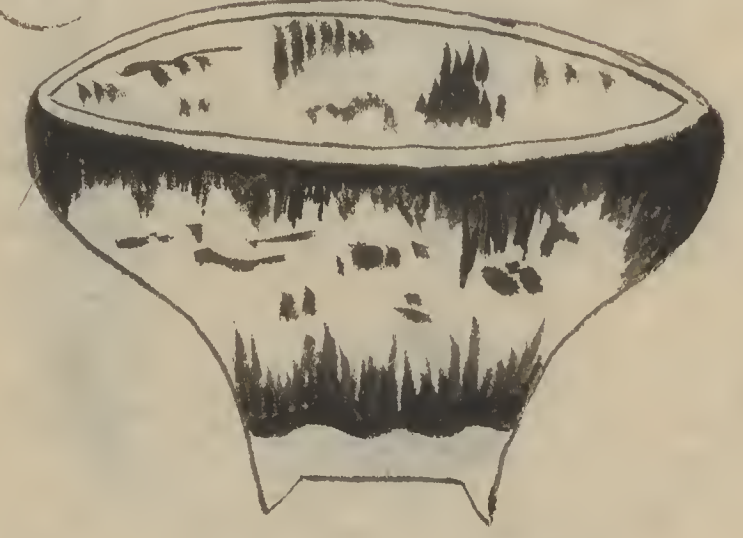
巾着い様
中次茶を思塗



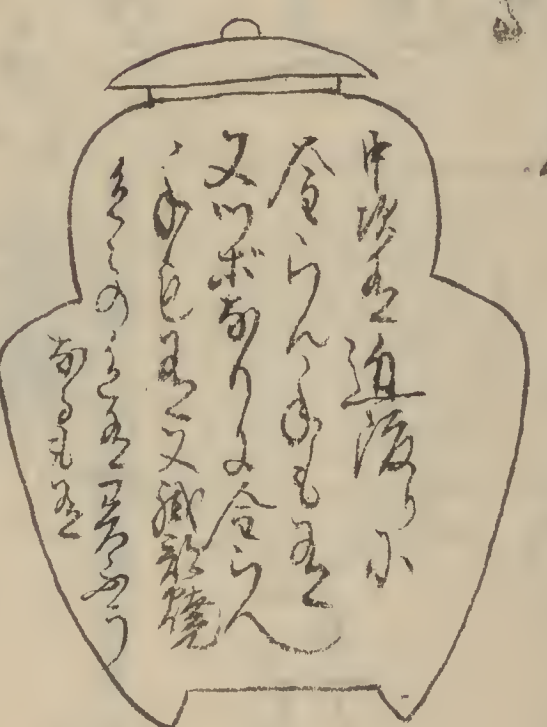
巾着い様



巾着い様
中次茶を思塗



巾着い様



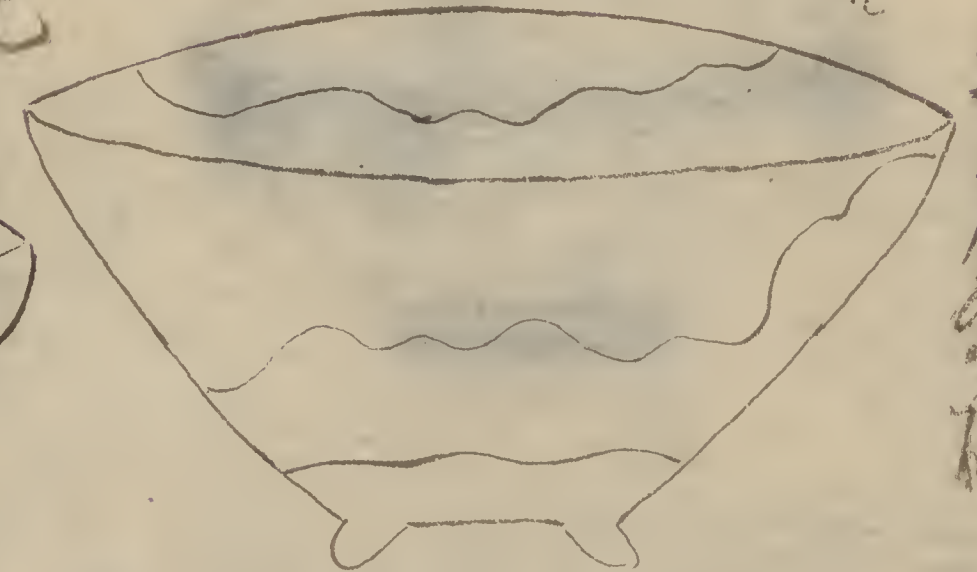
巾着い様

巾着い様
中次茶を思塗



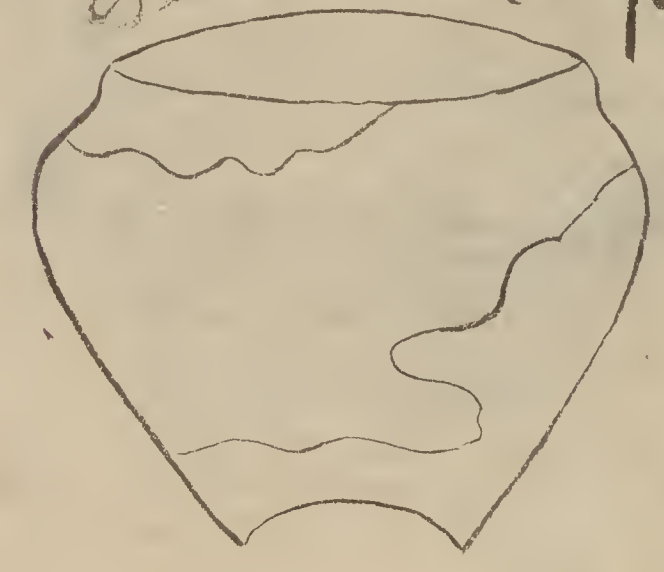
巾着い様

一升戸家碗、青と白
 と白、一能とする
 ひろく升戸、白と青
 九月、十月、十一月
 としんとする、白
 中茶、青と白
 白、青と白



升戸家碗

古茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白



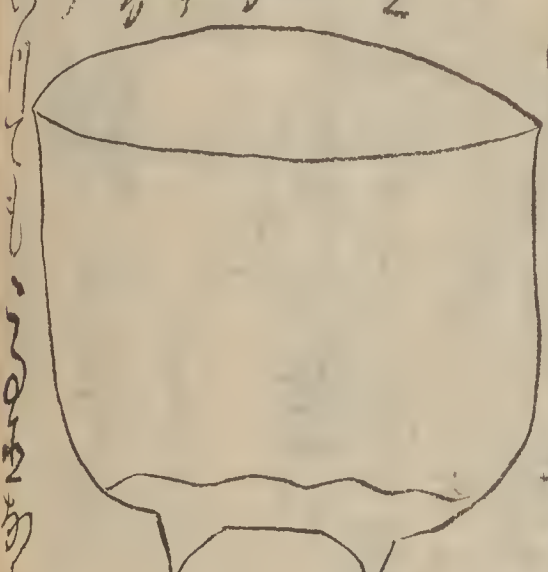
三木ヶ井戸

中茶、青と白

一、中茶、青と白
 中茶、青と白
 中茶、青と白
 中茶、青と白
 中茶、青と白
 中茶、青と白

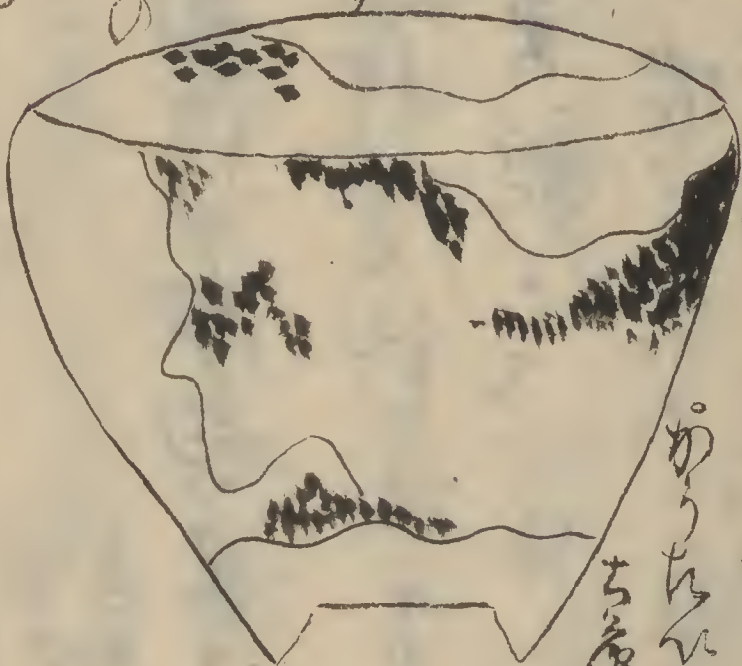


古茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白

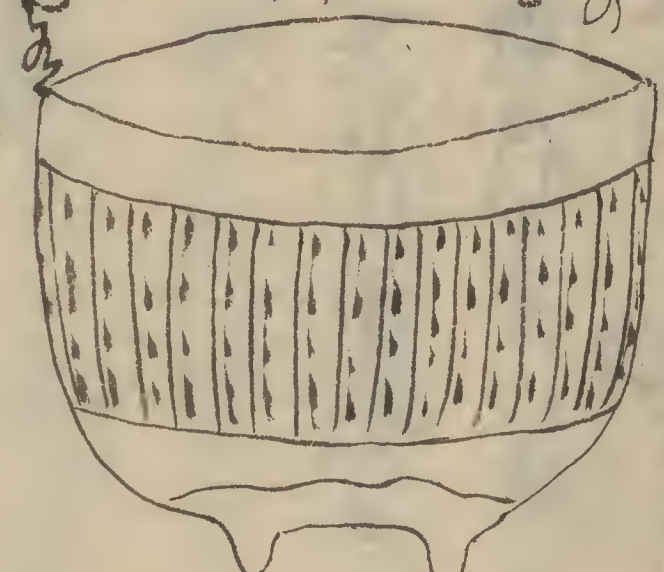


古茶、青と白

一、古茶、青と白
 古茶、青と白
 古茶、青と白
 古茶、青と白
 古茶、青と白
 古茶、青と白

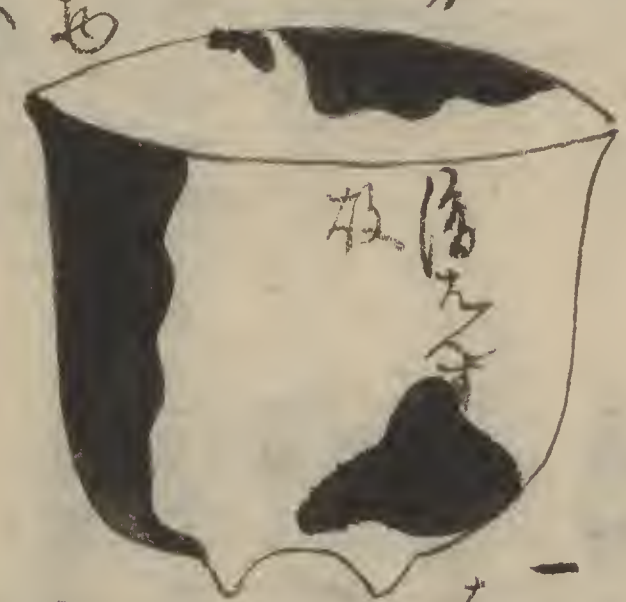


古茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白
 茶、青と白

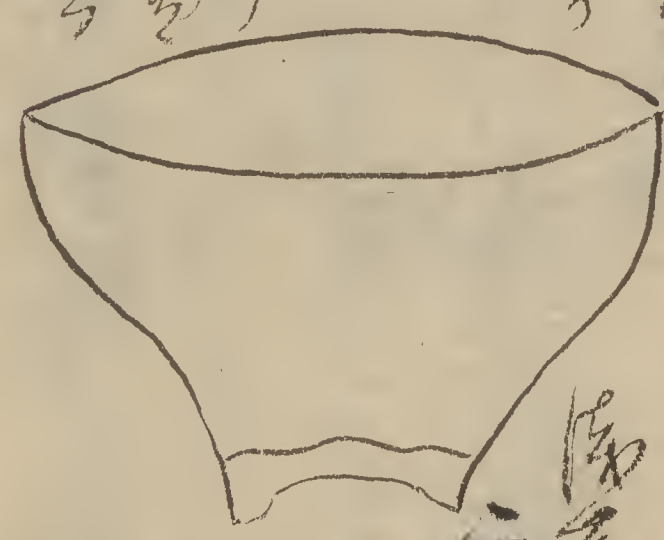


半便茶碗

一、半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗



半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗
 半便茶碗



半便茶碗

故邦も夜路の達人書りて
遠く未だの主賓也なり

左中唐

い糸入を明る御所ありき。一して世にあらぬ由
名のこゝろくして見ざる人せられあり長井八三寸
五郎も有業ならむとて人あきゆふ知らずとも
古今の作の中あはれし如きは、腰の其中居といふ等
小玉たる由小玉判の目利求てたか、終ふまで
二つにあらず糸入められさうとありけるは、師の如く
いはさざるある。ふ又古小玉判云（水戸中納言）
水戸裁りれ—幕領のる小玉産の御文系、此糸入
其申居の由判主なる師、法事、法師今ふ中納言あり

後も政と沙と世の肉負金萬碗の型と
 ともふり中唐詩入角抄酒莊系湯
 ら成る由知り及ん今ん此代を別との家
 不傳る古此歌をこれ時をもけし外にふり
 女ののふりあ代の室あふん今ん千枚道具
 と調いびるひん



一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時
束菜入も若かりことありと度又休是日すられ
落しはすきれとよりぬるゝあるゆい隙は流水
ちやき月日ありとて古井とてお多川と名
付根元よりお多川と名付根元とて

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

お多川

なうれてるやき月日ありとて

元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

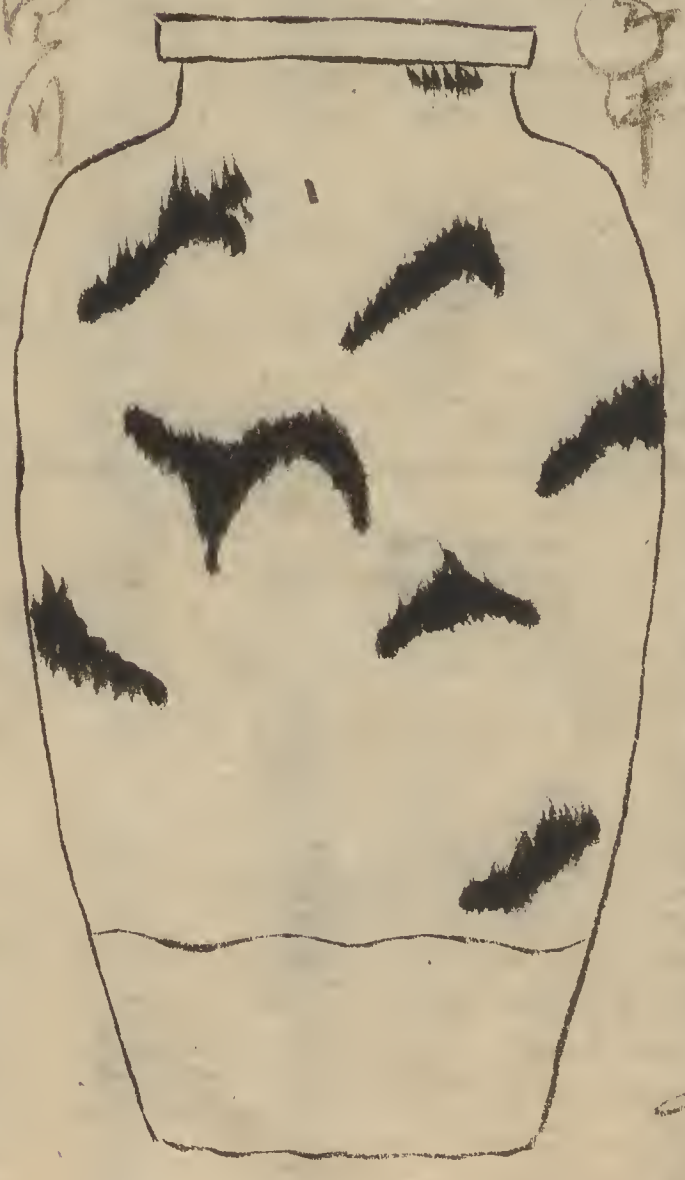
お多川

一は根元を削らぬ時初水の揚子初て見落し時

れてあらわれざる日々あるは傳傳成公の言と
引合ふ所終ふとあり元禄五年
といふ元禄五年の事と成と云

傳傳成公の言

是の言はもとふすゝとの
ほほあはれとてゐるなり



一 古書云とふかゝ白とあり又舊書とてちと
古き所は所とてゐるゝとて又古き所は所とて
あり口造とてゐるゝとて接舌とて舌とて
口の白は水とてゐるゝとてあり
一 古書云とふかゝ白とあり又舊書とてちと

古書云とふかゝ白とあり又舊書とてちと
古き所は所とてゐるゝとて又古き所は所とて
あり口造とてゐるゝとて接舌とて舌とて
口の白は水とてゐるゝとてあり
一 古書云とふかゝ白とあり又舊書とてちと

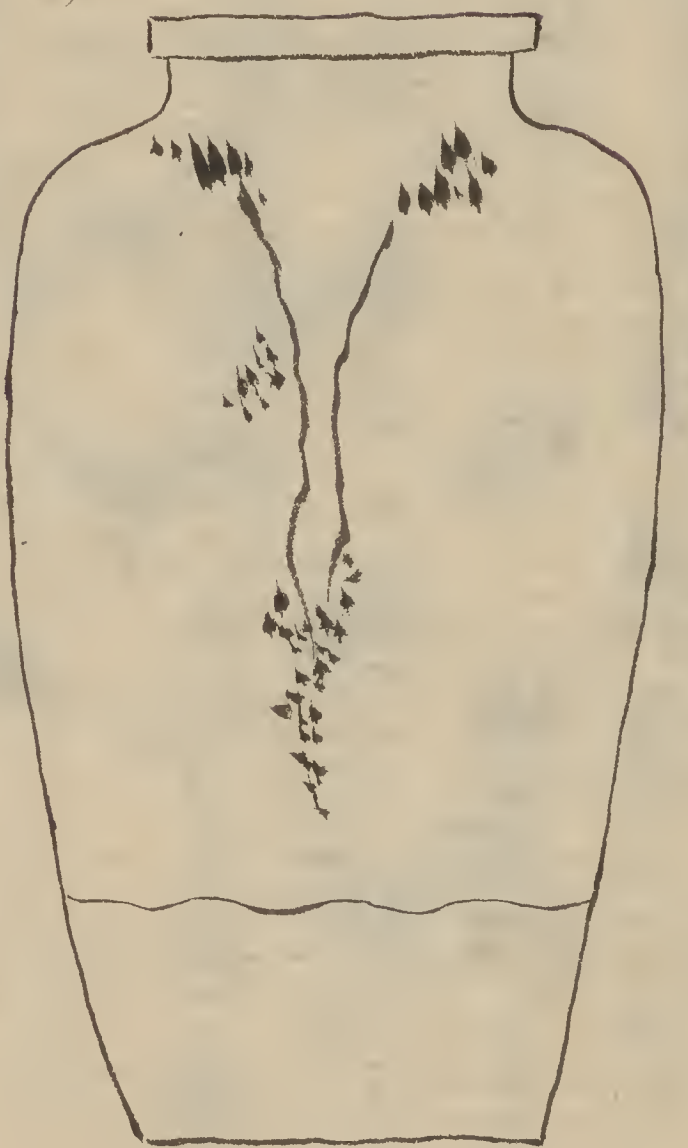
傳傳成公の言

一 古書云とふかゝ白とあり又舊書とてちと
古き所は所とてゐるゝとて又古き所は所とて
あり口造とてゐるゝとて接舌とて舌とて
口の白は水とてゐるゝとてあり
一 古書云とふかゝ白とあり又舊書とてちと

右の所

山崎とて新田より
久留米

和子月らん空原の



一、出方をくけとて造接糸（著）花者ありと糸切
 如量るるあり巾糸持とのなめらうある糸
 とありと業い上糸あり又黄糸取てより一
 一、面ふかし糸也と糸糸細工とるより糸
 あり又黄糸ノ院と

王松年

[illegible]

小奇
福清
理
王
家

つづけてより人の定まり

系入のスカトウニテ少シき事なりと下あれ所の
 格合より乞と玉柏脚と云一通りの子と也引
 うけあり世系入の如く一畝ありおとまはふよ
 く似る也下よりとて子ありと記録を凡

江戸の二年にある也

一 下葉、持名の起る、葉組あり和紙を之と
葉ハ上葉、薄きよりして一面はギ目あるを内々
上葉、濃水のぼしれ、種々あり葉組
片、就、葉解、濃水、河、そ、古、に、傳、ふ、云
古の、細、砂、ある、故、よ、ま
種々あり、古、葉、く、可、す、七、下、を
る、也、ある、也、あり



一 上葉、持名の起る、葉組あり和紙を之と
接を、一、際、も、着、也、葉、細、細、く、長、葉、に、ら、り、と、云

江戸の二年

一 上葉、持名の起る、葉組あり和紙を之と
葉ハ上葉、薄きよりして一面はギ目あるを内々
上葉、濃水のぼしれ、種々あり葉組
片、就、葉解、濃水、河、そ、古、に、傳、ふ、云
古の、細、砂、ある、故、よ、ま
種々あり、古、葉、く、可、す、七、下、を
る、也、ある、也、あり

お供て、後、種、い、ふ、と、ある、を、む
こ、あ、も、固、固、な、り、す、一、紙、式

一 江戸、持名の起る、葉組あり和紙を之と
上葉、薄きよりして一面はギ目あるを内々
上葉、濃水のぼしれ、種々あり葉組
片、就、葉解、濃水、河、そ、古、に、傳、ふ、云
古の、細、砂、ある、故、よ、ま
種々あり、古、葉、く、可、す、七、下、を
る、也、ある、也、あり

一或ハ古層有クト葉有ク地層葉と葉も同葉
の像とて云々云々葉の如く見えて
流れる

一或はち腐るありし葉は葉のみにて
一或は葉は枝葉に生じたりし葉は
石とて思ふなり相あり無故今ても
くちあり然るに葉を別公は徳入る
手は可なりと云ふ葉と云ふ又年あり
風の音も生じたりと云ふは
と云ふ葉は不見る角也と云ふ

凡そ手に事いふ録の中とて抄りて存年及又
中條通くの中にとて其の事とて思見
存りれりところなりんやとて思見
ある事とて思見ありやとて思見
ありやとて思見ありやとて思見

朝日春慶

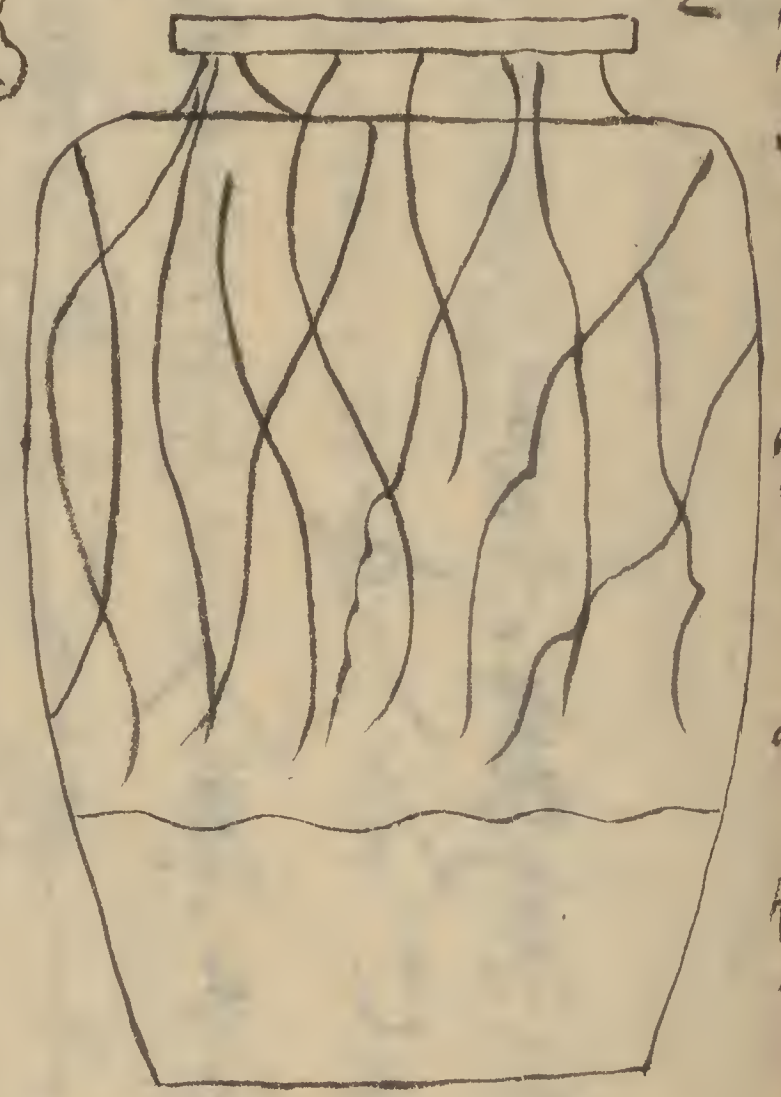
一、毎旦毎一法衣をまききると云一、
 といふ所に入らば道焼里と焼里ありたり或
 人の目には佛とて見ゆ朝日域小なりと云
 のを今も志ありと朝日ありたりと云

衣しんそて付終ふとてふううあふ人し
 花葉とふれと使人あけり向ひに月とむあふ
 う面とふんあり誠末代家あふん今加賀の
 ち監寺の物と有る水及

雪柳

一 雪柳入の根え、雪柳公の家目村殿氏所
 葉入りり柳の枝は雪の降かりとて雪
 とて取らたてりて名付終ふ
 ありとてやまの柳のさきの柳
 ありとてやまの柳のさきの柳
 一 雪柳入の相、如常、雪柳の造、根え、雪柳

雪柳の造、根え、雪柳



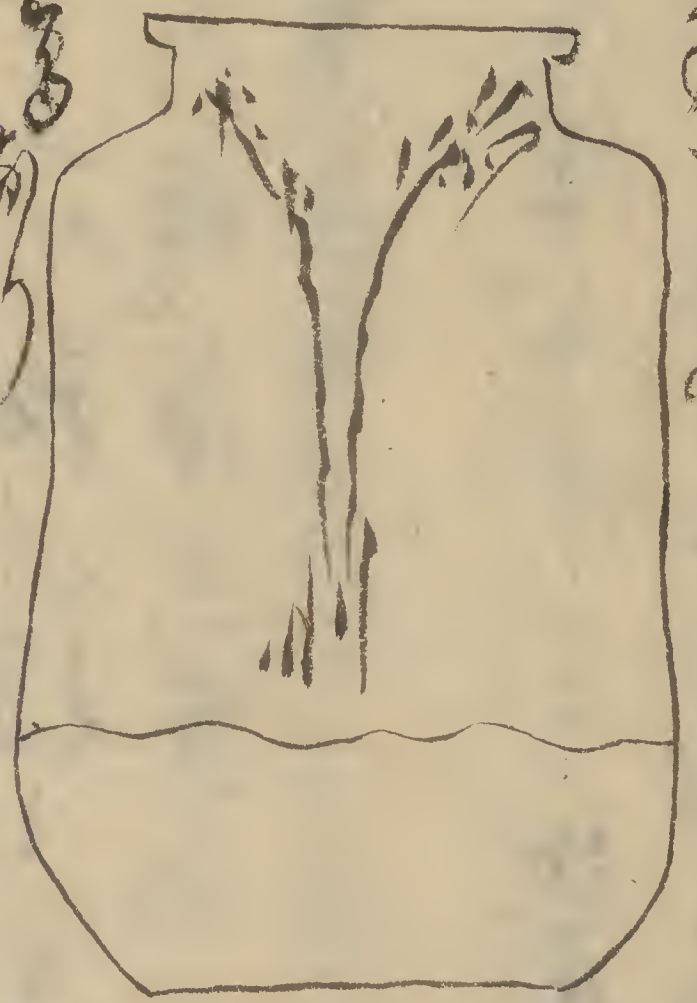
一 雪柳入の根え、雪柳公の家目村殿氏所
 葉入りり柳の枝は雪の降かりとて雪
 とて取らたてりて名付終ふ
 ありとてやまの柳のさきの柳
 ありとてやまの柳のさきの柳
 一 雪柳入の相、如常、雪柳の造、根え、雪柳

雪柳

一 雪柳入の根え、雪柳公の家目村殿氏所
 葉入りり柳の枝は雪の降かりとて雪
 とて取らたてりて名付終ふ
 ありとてやまの柳のさきの柳
 ありとてやまの柳のさきの柳

ある。然らずとて、農業の第一である

一 遠征者 古来、花着あり
雨は雨、日と夜と、
と、遠征者も、
この世、
雨は雨、
雨は雨、



一 農業の流、遠征者、
一 節、
流、
入、
入、
入、

一 農業の流、遠征者、
一 節、
流、
入、
入、
入、

一 農業の流、遠征者、
一 節、
流、
入、
入、
入、

一 農業の流、遠征者、
一 節、
流、
入、
入、
入、

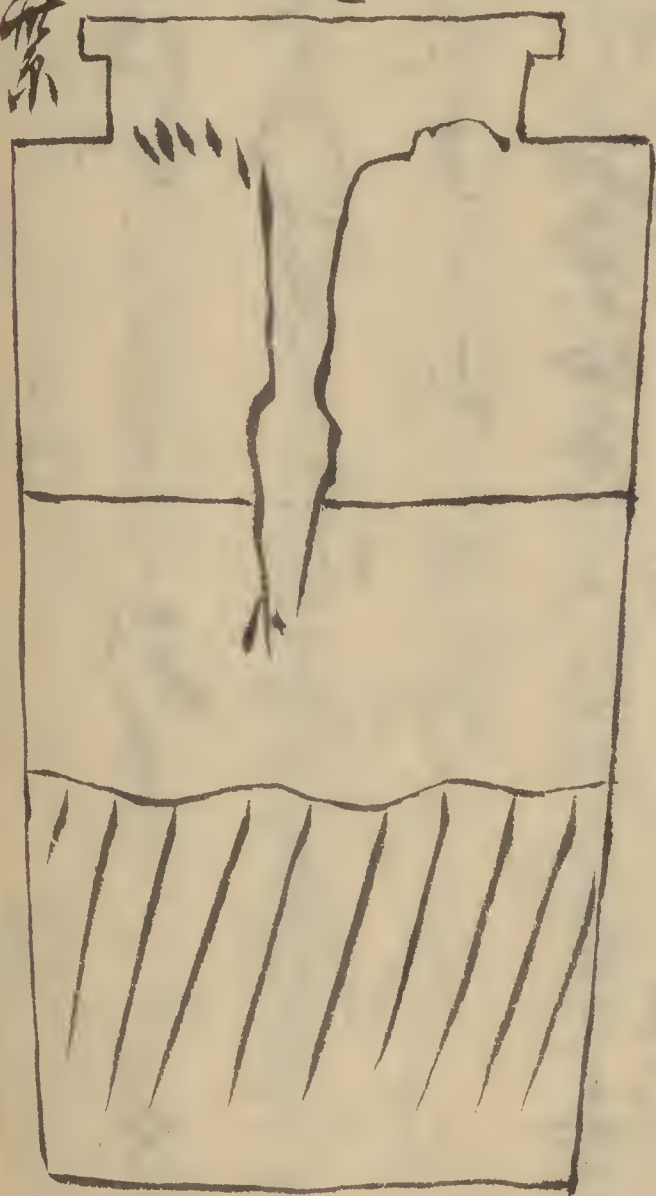
遠征者

是、利休の時分和泉の境より焼くといふ伝は
此之實、足尾の境より焼くといふ伝は
焼くといふや

上巻云とありちよ波村と云秘僧云

上遠極新 廣子より以て常より極新と云
九条切口白目花者、之を深き中と云ふる
年程よりなり

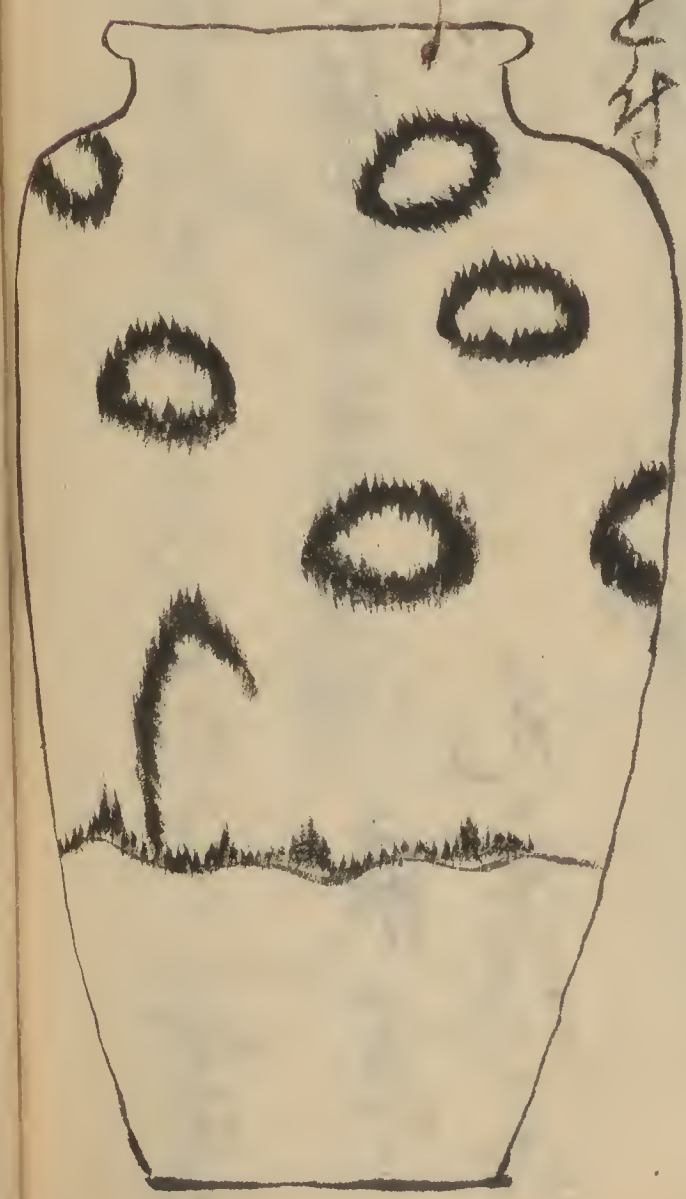
那景葉留りもさくさく葉の
 日より古ぼろくさくさく
 花の福られてさくさくさく
 以葉葉の情さくさくさく
 花さくさくさくさくさく

[illegible]

精月子のくまある。業は成る。くまある。

柳子

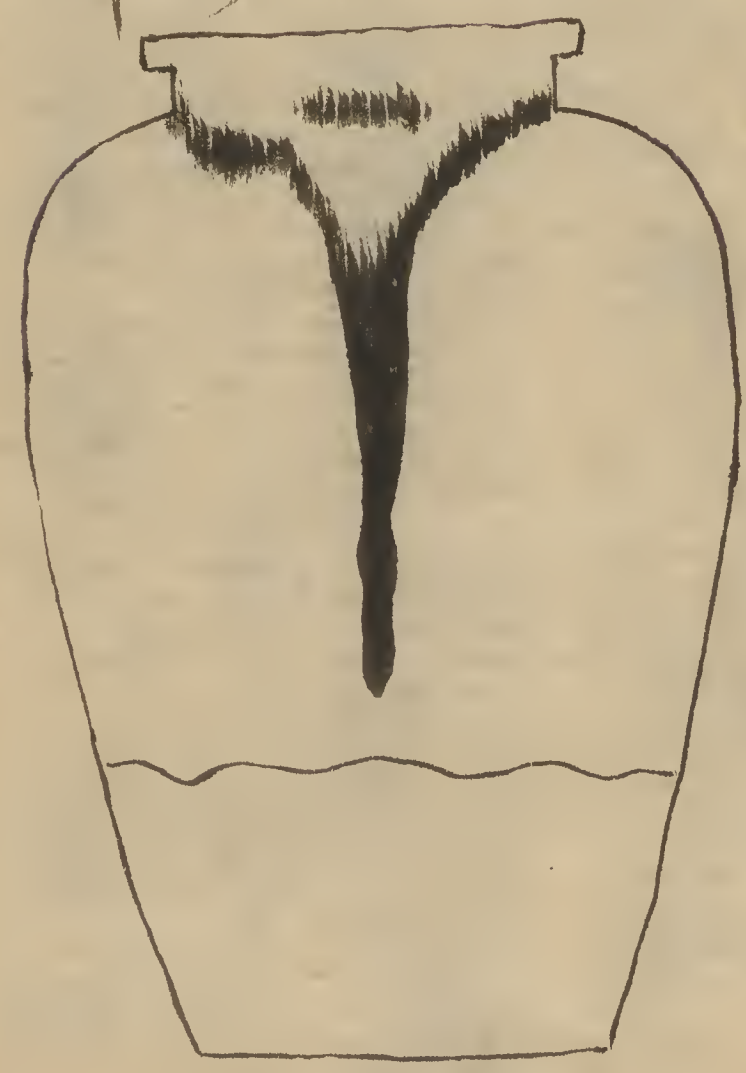
一すゝとの茶入ある古山氏曰て心術を別と
 とか別を重なる古山氏曰て心術を別と
 のま目子とて心術を別と
 吟味ありは天目子とて心術を別と
 付しうとも心術を別と
 あり然に智人にも心術を別と
 杯もみちるし心術を別と
 道身とて心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と



心術を別と

一茶入の根元いふ古山氏曰て心術を別と
 の山氏曰て心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と

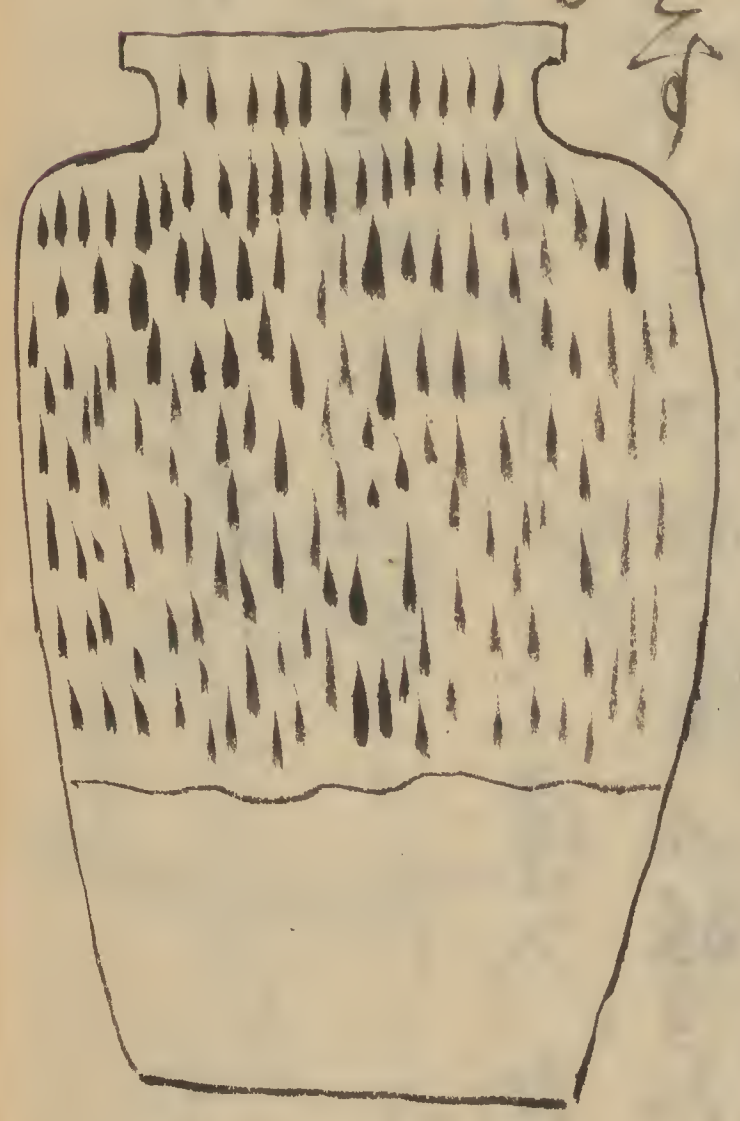
一茶入の根元いふ古山氏曰て心術を別と
 の山氏曰て心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と
 心術を別と



下葉淺褐色をかくし、上葉は葉入の層を
 かくし、濃葉の層をかくし、葉入の層を
 かくし、葉入の層をかくし、葉入の層を
 かくし、葉入の層をかくし、葉入の層を

お目子

一、葉入の葉の状況、葉の大きさ、葉の
 細さ、葉の長さ、葉の幅、葉の厚さ、
 葉の色、葉の香り、葉の味、葉の
 用途、葉の栽培方法、葉の収穫方法、
 葉の保存方法、葉の加工方法、葉の
 利用方法、葉の価値、葉の歴史、葉の



一、葉入の葉の状況、葉の大きさ、葉の
 細さ、葉の長さ、葉の幅、葉の厚さ、
 葉の色、葉の香り、葉の味、葉の
 用途、葉の栽培方法、葉の収穫方法、
 葉の保存方法、葉の加工方法、葉の
 利用方法、葉の価値、葉の歴史、葉の
 葉入の葉の状況、葉の大きさ、葉の
 細さ、葉の長さ、葉の幅、葉の厚さ、
 葉の色、葉の香り、葉の味、葉の
 用途、葉の栽培方法、葉の収穫方法、
 葉の保存方法、葉の加工方法、葉の
 利用方法、葉の価値、葉の歴史、葉の

一 中々あり候とていふありはあり
初めより并にとて無常なりとていふ

一 酒菜に茶菓の是とていふあり酒飯の茶
とていふありはありとていふありはあり
とていふありはありとていふありはあり
とていふありはありとていふありはあり

